

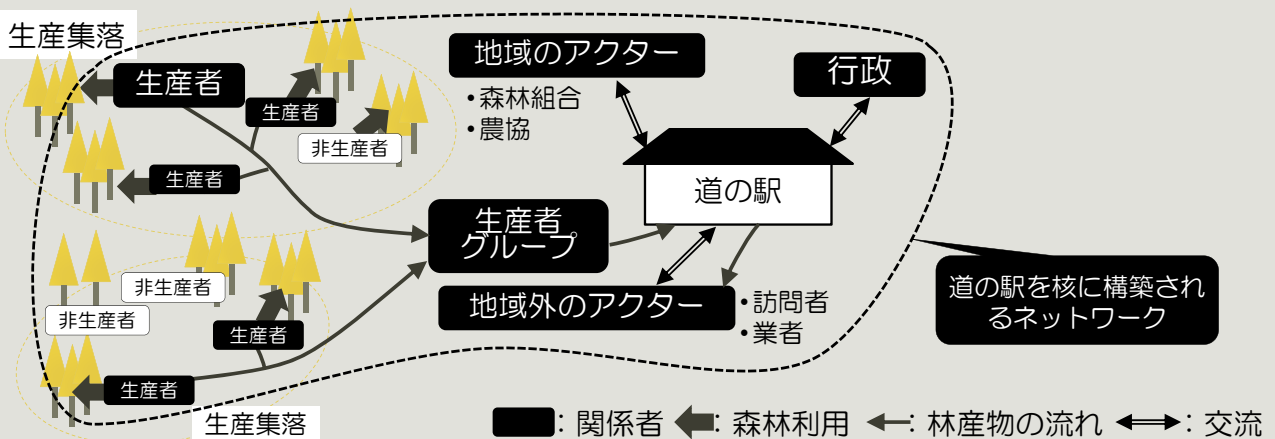
# 研究の背景



森林とはかかわりのない生活をおくる山村住民が多数。  
 森林への関心↓， 森林の管理・経営意欲↓

➡ 森林に関心を持ってもらう必要がある。  
 地域の林産物販売を拡大することが関心向上につながるのではないか。  
 →全国の「道の駅」に着目した

## 「道の駅」が果たしている役割



➡「道の駅」の林産物販売は、地域の林産物流通だけでなく、林産物を含む森林資源の情報とそれらに対するニーズの情報を交換する地域内外のネットワークを構築しているのではないか

このネットワークの構築は、山村部の林産物生産や地域住民の森林利用・管理にどのような影響を与えたのかだろうか？

## 目的

- ① 「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が、山村部の林産物生産にどのように繋がっているのか
- ② 「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が地域住民の森林利用・管理に及ぼす影響を明らかにすること。

課題①  
(2020年度)

「道の駅」の林産物取り扱い状況と林産物の生産・供給体制の概況把握

課題②  
(2020～21年度)

「道の駅」の林産物ネットワークの解明

課題③  
(2020～21年度)

「道の駅」の林産物販売・需要創出機能が地域の森林利用・管理に与えた影響の評価

3

## 方法① アンケート調査

目的: 林産物販売状況と地元とのつながりの把握

調査対象 全国の道の駅(1,180駅)

- ① 「道の駅」と出荷者との関係(出荷者が出荷するための仕組み)を把握

### 想定される仕組み

- A 「道の駅」自らが設置した出荷者組織に登録し、その組織を通して出荷
- B 既存の生産者組織に登録し、その組織を通して出荷
- C 個人が直接「道の駅」に登録・出荷

- ② 仕組みごとの「道の駅」の特徴を分析

- ・ 組織構成(設置者種別, 管理・運営者種別)
- ・ 林産物の取り扱い状況や集荷方法
- ・ 林産物を用いた特産品の開発状況
- ・ 林産物販売に関する行政や既存の組織との連携状況

4

# 方法②「道の駅」関係者と地域住民への聞き取り調査

目的:「道の駅」ネットワークと地域住民と森林とのかかわりに与えた影響の解明

①の仕組みごとに事例調査する「道の駅」を選定(1事例/1類型)

<b>調査対象</b>	それぞれの「道の駅」の <b>A) 関係組織</b> ・設置者(市町村) ・運営者(第三セクター等) ・林産物の生産・供給組織(生産者組合等) ・連携組織(森林組合等)の関係組織 <b>B) 地域住民</b>
<b>調査方法</b>	A) 聞き取り調査 B) 聞き取り調査 & アンケート調査

